

障害のある性暴力被害者の実態と相談支援の状況

—被害当事者へのアンケート調査に基づく分析—

○ 法政大学現代福祉学部 岩田千亜紀 (008828)

キーワード：障害者、性暴力被害、相談支援

1. 研究目的

性暴力被害のもたらす身体的・精神的影響は大きく、深刻な人権侵害を及ぼしている。誰もが性暴力の被害者になるが、障害者は性暴力被害におけるハイリスク群である。近年、障害のある性暴力被害者の実態は、少しずつ明らかになってきた。しかし、性別を問わず、身体障害・精神障害・知的障害など、様々な障害のある性暴力被害当事者を対象とした、被害者の実態やニーズについての研究はほとんど実施されていない。そこで本研究は、障害のある性暴力被害当事者を対象に、性暴力被害の実態と相談支援の状況を明らかにすることを目的として実施した。

2. 研究の視点および方法

- 1) **研究の視点**：本研究では、障害のある性暴力被害当事者を対象とした調査を行うことで、被害当事者の視点やニーズを踏まえた相談支援等のあり方の検討を目指した。
- 2) **方法**：障害のある性暴力被害者当事者への WEB アンケート調査を実施した。関連機関や SNS においてアンケートについての周知を行い、調査を実施した。アンケート期間は、2023年2月9日から3月12日であった。
- 3) **対象者**：「望まない性的行為を経験した」障害者（障害のある女性、男性、性的マイノリティ）を対象とし、障害の疑いのある人についても調査対象に含めた。

3. 倫理的配慮

本研究は法政大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（研究倫理番号 220211_2号）。アンケート調査依頼書において、個人情報保護、研究発表等の説明を行い、同意を得た場合のみ回答を依頼した。本発表に関連して、開示すべき利益相反（COI）はない。

4. 研究結果

- 1) **回答者の属性**：表1に、回答者65名のうち、性暴力被害に1回以上遭ったと回答した54名の属性を示す。
- 2) **性暴力被害の状況**：表2に、性暴力被害に遭った54名の性暴力被害の状況を示す。
- 3) **被害後の相談・支援状況**：性暴力被害に遭ったと回答した54名のうち、被害後に相談をした人は44名（81.5%）、相談をしなかった人は10名（18.5%）であった。相談先は多い順から、友人・知人（23名、42.6%）、家族・親戚（19名、35.2%）、医療関係者（12名、22.2%）であった。被害の相談時には、目が見えないため加害者の容姿を説明できないなど、困難だと感じたことがあった。また、被害を相談して回復に役立つ

った、または役立たなかったという回答は、それぞれ約半数であった。理由として、被害を相談して受け止めてもらえたケースや、誰にも相手にされず障害のせいだとされ放置されたケースなどが挙げられた。

- 4) **相談・支援への要望など**：回答者からは、「とくに精神障害があると妄想・妄言と取られがち。まずは事実として受け止めて、ちゃんと捜査してほしい」、「証拠、証明ができなくて、泣き寝入りになってしまわないように相談窓口をしっかりと設置してほしい」など、様々な要望があった。

表1 回答者の属性 (N=54)

項目		人数(人)	割合(%)
属性	本人	52	96.3
	本人以外	2	3.7
性別	男性	3	5.6
	女性	48	88.9
	その他	3	5.6
年代	10歳代	1	1.9
	20歳代	9	16.7
	30歳代	22	40.7
	40歳代	7	13.0
	50歳代	11	20.4
	60歳代	4	7.4
障害	知的	2	3.7
	知的・精神・発達	1	1.9
	知的・発達・身体・難病	1	1.9
	知的・身体	1	1.9
	精神	6	11.1
	発達	9	16.7
	精神・発達	19	35.2
	身体	15	27.8
手帳	あり	48	88.9
	なし	6	11.1
被害回数	1回	7	13.0
	2~9回	27	50.0
	10回以上	20	37.0

表2 性暴力被害の状況 (N=54)

項目		人数(人)	割合(%)
加害者の性別	男性	45	83.3
	男性・女性	6	11.1
	男性・女性・不明	1	1.9
	男性・不明	1	1.9
	女性	1	1.9
加害者との関係(複数回答)	知らない人	26	10.0
	親(養親・継親含む)	13	5.0
	友人・知人	18	6.9
	学校関係者	12	4.6
	職場関係者	11	4.2
	(元)交際相手	10	3.8
	兄弟姉妹	9	3.4
その他	32	12.3	
被害状況(複数回答)	同意のないボディタッチ	43	27.6
	不快な性的ジョーク	31	19.9
	痴漢	24	15.4
	同意のない性交	23	14.7
	つきまとい	15	9.6
	待ち伏せ	11	7.1
	その他	9	5.8
被害時の年齢(複数回答)	小学校入学前	8	5.6
	小学生時	23	16.1
	中学生時	22	15.4
	中学卒業以降~17歳	16	11.2
	18・19歳	17	11.9
	20歳代	35	24.5
	30歳代	13	9.1
	40歳代以上	9	6.3

5. 考察

本研究のアンケートに回答をした障害のある性暴力被害者では、障害種別や性別、年代を問わず、80%以上が複数回の性暴力被害に遭っていた。また、加害者の多くは男性であったが、加害者の属性は様々であった。障害があることによって、被害を相談することが難しく、相談しても被害後の回復に役立っていない実態も多いことが明らかになった。今後は、本研究から明らかになった障害のある性暴力被害当事者の相談ニーズ等を踏まえて、障害のある性暴力被害者への相談支援のあり方を検討することが必要である。